科目名	眼筋機能回復学演習	分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位

担当教員	◎教授　林　孝雄						
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法	演習

授業の概要	眼筋機能異常の回復としての手術について習得できる。
授業の到達目標	① 眼筋機能異常の最終的治療法である手術について、種類および程度による手術方法の選択や量定を説明できる。 ② 麻痺性斜視、筋原性斜視および機械的斜視の手術自体は視能訓練士にはできないが、術前および術後の検査を通じて、手術に視能訓練士が関与せざるを得ない。手術を行う眼科医と共に、手術適応や手術方法および量定ができる。 ③ 麻痺性斜視のうち特に上下筋麻痺による上下斜視および回旋斜視の手術方法および量定を説明できる。 ④ 眼筋機能の中から一つの主題を設定し、文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。

授業計画

回数	担当者	行動目標
1	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常の手術 実際の症例をみながら、眼筋機能異常の手術方法の選択や量定を説明できる。
2	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常の手術 実際の症例をみながら、眼筋機能異常の手術方法の選択や量定を説明できる。
3	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常の手術 実際の症例をみながら、眼筋機能異常の手術方法の選択や量定を説明できる。
4	林　孝雄　教　授	上下筋麻痺性斜視の手術 実際の症例をみながら、上下筋麻痺による上下斜視および回旋斜視の手術方法および量定を説明できる。
5	林　孝雄　教　授	上下筋麻痺性斜視の手術 実際の症例をみながら、上下筋麻痺による上下斜視および回旋斜視の手術方法および量定を説明できる。
6	林　孝雄　教　授	上下筋麻痺性斜視の手術 実際の症例をみながら、上下筋麻痺による上下斜視および回旋斜視の手術方法および量定を説明できる。
7	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常に関する演習 実際の症例を選択し、その診断から治療に関して把握するとともに文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
8	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常に関する演習 実際の症例を選択し、その診断から治療に関して把握するとともに文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
9	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常に関する演習 実際の症例を選択し、その診断から治療に関して把握するとともに文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
10	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常に関する演習 実際の症例を選択し、その診断から治療に関して把握するとともに文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
11	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常に関する演習 実際の症例を選択し、その診断から治療に関して把握するとともに文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
12	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常に関する演習 実際の症例を選択し、その診断から治療に関して把握するとともに文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
13	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常に関する演習 実際の症例を選択し、その診断から治療に関して把握するとともに文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
14	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常に関する演習 実際の症例を選択し、その診断から治療に関して把握するとともに文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。
15	林　孝雄　教　授	眼筋機能異常に関する演習 実際の症例を選択し、その診断から治療に関して把握するとともに文献調査を行い、特別研究における修士論文作成につなげていくことができる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	丸尾敏夫、久保田伸枝 著:斜視と眼球運動異常、株式会社コームラ、2017年 丸尾敏夫 他 編:視能学 第2版、文光堂、2011年 大鹿哲郎 編:眼科プラクティス 6、眼科臨床に必要な解剖生理、文光堂、2005年 大鹿哲郎 編:眼科プラクティス 25、眼のバイオメトリー、文光堂、2009年 丸尾敏夫 編:眼科プラクティス 29、これでいいのだ斜視診療、文光堂、2009年
参考書	
成績評価の方法および基準	レポート30%、口頭試問60%、授業内課題10%　欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。(ディプロマ・ポリシー2に相当する)